

「マイナスをプラスへ」

興南高等学校 1年生 阿武 真帆

小さな島ですが、青い空・透き通る海・白い砂浜・世界遺産・伝統工芸・文化と見るものが多い島“おきなわ”です。その“おきなわ”の観光として私が提案したいのは、歴史と平和の視点から見る観光のあり方です。

今年で戦後六十九年、復帰四十二年となりますが、糸満市にある平和祈念公園、国道五十八号線を北上すると両サイドにある米軍基地、最近ではオスプレイにも慣れてきました。

私は、平成二十二年八月九日第六十五回長崎平和式典に参列しました。小学生の思い出として参加したのですが、被爆者の体験談やジャーナリストの高瀬毅さんの講演を聞いたり、平和学習として良い体験が出来たと思っています。

私は高瀬さんの言葉が今でも印象に残っており、「長崎は広島に比べて被爆地という印象が薄い。原爆ドームに匹敵するような遺構がないからだ。」との言葉でした。

たしかに広島には原爆ドームが残っています。長崎の浦上天主堂は残念ながら一九八五年に撤去されており、一部が教会敷地とは別の公園に移築されてしまっています。地上戦になった“おきなわ”ですが、原爆ドームのような遺構はなく、一九九五年沖縄戦終結五十年を祈念し建てられた平和の礎・石碑はありますが、戦争の跡として残っているのはガマと戦後の米軍基地です。多くの語りべの方々が高齢となっていて、引き継ぐ者がいないと言われています。原爆を経験した広島と長崎、地上戦を経験した沖縄、いずれも未来への継承が難しくなっていると思います。

私は戦争を知りません。でも、生活の中に米軍基地はあります。米軍問題は

様々ですが、現状として基地反対でも受け入れるしかないのかと思います。ならそれを、歴史と平和の視点から観光として活用できないものでしょうか。

例えば、平和祈念公園での平和学習です。平和の礎や石碑・語りべの方のお話を聞くことで恒久の平和を感じることができるのではないかと思います。

世界遺産めぐりでは、かつて“おきなわ”が“琉球國”と呼ばれ、グローバル化が進む現代の状況を、「海」という“壁”ではなく、外の世界へと繋がる“道”として、外交貿易の拠点地となっていたことを学ぶことができます。工芸体験では、琉球ガラスや陶器はよく聞きますが、首里城公園での琉球漆器体験があるのもご存知でしたでしょうか。

米軍基地に入ることは出来ませんが、フェンス越しに外周を見たりは出来ます。基地は沖縄本島の約七十四パーセントを占めます。その基地の広さを知ることにはできるのではないのでしょうか。とは言っても、“おきなわ”での生活は危険と隣合わせです。

沖縄国際大学の焼け焦げたアカギの木を見ることで、今もまだ生活の中に危険があることを知ってもらえるのも今の“おきなわ”だと思います。

自然に癒され、音楽に癒され、リピーターも多い“おきなわ”ですが、違う“おきなわ”を知ってもらえるのもこれからの“おきなわ”観光だと思います。

マイナスの部分をあえて観光コースにすることでプラスに出来れば、日本中・世界中に頑張っている“おきなわ”を知ってもらえるチャンスではないかと思います。

私も、沖縄の歴史を学び、少しでも観光産業の力になれるよう、広めて行きたいと思っています。